

## 福音の絶対価値(マルコ 14:55-66)

イエスはキリストという福音を知らないで、自分は何のために生きるのか、どのように生きるべきなのかといくら考えても正解にたどり着くことはありません。それほどイエスはキリストと信じるこの信仰こそ、私たちの人生全体を左右する鍵となる重要なものになるということでしょう。なので、今日の礼拝を通してイエスはキリストと信じるこの信仰が、どのような祝福なのかということを変更して考えていきたいと思えます。

### 1. 「イエスはキリスト」と信じる時、真理と偽りが見分けられ、聖霊に導かれるようになる。

まず第一に、イエスはキリストと信じる時、真理が何で偽りが何かを見分けることができ、結果、聖霊に導かれることとなります。だから、その人の人生は勝利の人生になるしかありません。

#### 1) 「イエスはキリスト」は福音

「イエスはキリスト」、このことを福音と言います。喜びの知らせとも言います。なぜ「イエスはキリスト」が福音になるのかと言いますと、人が罪を犯して神様を離れて、サタンの奴隷になり、まったく希望のない滅びの運命に捕らえられることになりました。その人に対して唯一の希望になるのは、悪魔の頭を踏み砕いて勝利すること、罪が贖われること、そして、また神様と一緒にいのちが得られること、それ以外に人生に希望などはありません。このことを完璧になさると約束されて、それがすべて実現され成し遂げられた、その方の名前がキリストなのです。私にとって、皆さんにとって唯一の希望は、勉強でもお金でもなくてキリストなのです。悪魔のしわざを打ち壊して罪をきよめられ、神のいのちの主となるキリスト、それ以外に希望などはありません。唯一の希望がキリストなのですが、処女マリヤからお生まれになって十字架にかけられて復活なさったそのイエス様こそキリストなのです。だからイエスはキリストということは喜びの知らせであり、絶望の人類に、希望が全くない私に希望の光が照らされることなので唯一の希望というわけです。だから喜びの知らせ、福音と言うようになります。だからイエス様自ら「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」とおっしゃいました。イエスはキリスト。この告白は福音そのものなのです。

#### 2) サタンの国において「イエスはキリスト」は最悪

だから逆に申し上げますと、サタンの国においては、イエスはキリストという福音、この真理は罪であり、罪の中の罪になります。イスカリオテ・ユダがイエス様を売り出して、パリサイ人の指図を受けた人々がイエス様を逮捕するために来ました。そのときに剣と棒を持ってきたので、イエス様が彼らにおっしゃいます。「なぜ強盗でも逮捕しようということだ剣と棒を持ってきたのか。私が強盗なのか。勘違いも甚だしいのではないのか」ということをおっしゃいました。でも彼らはなぜ剣と棒を持ってきたのでしょうか。パリサイ人がイエスは強盗より凶悪な者ですよという指図をしたので、それを聞いて言われたまま、ならば棒と剣を持って行かないということだったと思うのです。だから、彼らが思っているイエス様の罪は全くあてになりません。的外れなのです。イエスはキリストなのに強盗扱いをしていたわけですから。全くの誤解なのです。それからイエス様が逮捕された後、群衆は「あのイエスはもう死刑にすべきなんだ」とイエスに対してさまざまな悪いことを訴えました。でも、聖書を見ますと、なにひとつ証拠にならない、全部が偽証だったということが示されています。それである人が「あの人は自分で今の神殿を壊して、自分の手で三日でまた立て直すということを行ったんだよ」と。でも、ほかの人は「いや、自分で壊すとは言ってないよ」とか、いろいろな話が出て、それも結局証拠として成り立ちませんでした。整合性が全く合わないわけですから。そういうことばかりなのです。それでそのパリサイ人がイエス様に「なぜあなたに不利な証拠ばかり取り上げられているのに、何も反論しないでいるのか」と機会を提供しました。けれども、イエス様は黙って何も言いませんでした。なぜでしょうか。全部が偽りであり、でたらめだったので。そして、最後にパリサイ人がイエス様に言います。「あなたは神の御子キリストと言っていたみたいだが本当なのか」と聞いたときに、それに対してイエス様はそのとおりのことだと。今まで黙っていらっしやったイエス様がその質問に対しては答えました。それだけが真理であり、それだけが真実なのです。真理に対してはイエス様が「そのとおりのことだ。私がキリストであり、神の御座からあなたがたに雲に乗って来られることを見るようになるだろう」

と真実、真理を宣べました。すると、もうこれ以上の証拠はない、これ以上何も取り調べなどいらない。この人はもう死刑に値するものなんだと結論を出したということが今日の聖書の箇所です。

つまり、サタンの国においては、イエスはキリストという福音、その真理こそが偽りであり、罪であり、悪の中の悪、最悪になり、そういうふうに使われるところなのです。そのことをよく覚えて、イエスはキリストという福音をもって何が真理なのか、何が偽りなのかを見極めることができるようになるわけです。それ以外の基準は何一つありません。それで聖書を見ますとイエス様ご自身がおっしゃいましたように、ヨハネ8:44には、「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです」とあります。

### 3) サタンの国は偽りの天国

つまりサタンの国は偽りの天国なのです。だから、真理に対して耐えることができません。それを排除しないとイケないし、消さないといけないのです。

#### ①福音を消すこと

だから何が真理なのか、何が偽りなのかを見分ける方法は、イエスはキリスト、この福音が消されるのか、あるいはそれが守られるのか、それだけが見極めるための唯一の基準なのです。今日の聖書を見ますとサタンの国においては、イエスはキリストという福音をもって死刑にしてしまいます。これが偽りなのです。サタンの国においては、それが当たり前なのかもしれませんが、私たちはそれを見極めないといけません。つまり、偽りというのはサタンの国に横行するものなのですが、それが何かと言いますと、イエスはキリストという福音を消すことが偽りなのです。世の中にはさまざまな宗教があります。宗教は悪いものではありません。また、瞑想などを強調するところもあります。瞑想も悪いものではありません。自分の内面を整えようという意図なので、それは悪くありません。しかし、だからといって、その自分の内面を整えることで人生に希望があり、新しいものになれると主張し始めた瞬間、これは偽りなのです。その瞬間からイエスはキリストという福音が消されていくようになります。それに死刑を宣告するようなことになります。宗教は人間の行いを正してしっかりしましょうという訴えなので、悪いことではありません。しかし、だから人間の行いが人の幸せと不幸を左右すると主張を始めたときに、それは偽りになります。その瞬間、イエスはキリストという福音は消されていくようになります。教育は非常に大切なものです。人を啓蒙するものなので。しかし、教育が必要なこととだからと言って、知識こそが人生の希望につながるものだという発想を始めた瞬間から、それは偽りになります。その瞬間、みな称賛して同意するでしょうけれども、賛同するかもしれませんが、イエスはキリストという福音を消すことになります。わかりますか。なぜイエスはキリストと信じるときに真理と偽りを見極めることができるのかということ、クリスチャンの私たちはよく覚えていないといけません。政治はこの社会を維持するために必要なものに間違いありません。しかし、だからと言って、政治が国民の不幸と幸せを左右するものだと考え始めた瞬間、それは偽りに転落し、イエスはキリストという福音を消すことになります。死刑を宣告するようなことになります。人間が生きるためには、芸術は不可欠なものです。歌や美術や音楽や劇や小説、アニメ、漫画いろいろなジャンルがあります。それぞれ、それ自体は悪いものではありません。しかし、その芸術のさまざまな分野で、結局何を主張するのかを見ないといけません。でも、ほぼ100%すべてが「人間最高、だからこれ以上何もいらない」。あるいは人間がだめな場合は「宇宙のどこかにこの地球を助ける者がいるよ」という訴えなのです。形はいろいろ違うでしょうけれども。芸術が悪いわけではありませんが、芸術がそういうヒューマニズムを訴えた瞬間、それは福音、イエスはキリストを消すことになるので偽りなのです。真っ赤な嘘であり、偽りの父、悪魔サタンに操られることに間違いありません。そのような識別力をクリスチャンの私たちは持っていないといけません。そして教会でもこの分別がなければ騙されるしかありません。教会でも福祉を強調し、また神秘的な何かを求めたり、教義にこだわったり、社会正義を訴えたり、その大義名分は非常に良いものです。

#### ②福音を遠ざけること

しかし問題は、教会がそのようなテーマを訴えることによって、イエスはキリストという福音から遠ざかる

ことになるのです。そうするとそれは偽りなのです。いくらこの世界に求められる大義名分であっても、それは偽りなのです。問題なのはクリスチャンの私たちがこの識別力をほぼ持っていないのです。ニュースを見て、映画を見て、メディアを通して聞こえてくることなどを正しく見極めることができないでいるということがクリスチャンの問題ではないでしょうか。ペテロはイエス様が逮捕された後、つまりイエスがキリストであるという理由で十字架に向かう時に、今まで命がけでイエス様に従いますと宣言していた人間が、イエス様から遠ざかって遠く離れてついて行くと書いてあります。

### ③福音から逃げること

それから、ほかの弟子たちは、イエス様がキリストであるということは明らかになった瞬間、逮捕された瞬間、みな逃げていきました。ある人は裸になって逃げていったと、今日読んでないところのとなりの箇所を見ますと、そういうことが書いてあります。イエス様に従うと言いながら、教会に通いながら、教会という看板を掲げていながら、さまざまな大義名分に惑わされることで、イエスはキリストという福音から遠ざかったり、逃げていくようなことになれば、それはみなが騙されるでしょうけれども偽りなのです。私たちはそのことに対しては譲る気などは 1mm もありませんし譲ってもいけません。これほどイエスはキリストという信仰はすべてを判断するための鍵となるものだということをぜひ覚えていてください。個人的にも同じでしょう。私たちの人生の歩みには嬉しいこともあります。苦難もあります。悲しいこともあるし、損することも得することなどもあります。しかし、問題はそれ自体ではありません。その事実そのものが良いか悪いかではなくて、そのことによってあまりにも嬉しいので、イエスはキリストという福音から遠ざかってしまう場合があります。それは薄れていくようになる場合があるのです。そうすると、その人はうれしいことのあまりに偽りに騙されていることだということを忘れてはいけません。あまりにも苦難があり、悲しいことがありました。くやしいことが問題ではなくて、そのことによって、もしその人から福音が薄れていきますと、イエスはキリストという福音が忘れられることになれば、それは偽りなのです。悲しい苦難が偽りではなくて、偽りの父、悪魔サタンが 24 時間働いているということに気づかなければなりません。損することも得することもあります。私たちは得すればうれしいな、損すればガタガタになるんでしょうね。それが偽りに操られることなのです。問題は損なのか得なのかではなくて、イエスはキリストの方にしっかりと立っているのか、そこから遠ざかってしまうのかと、自分はどうかなのかということについて緊張して見極めるようにならないといけません。これが人生そのものを左右する鍵となるものではないでしょうか。

## 2. 「イエスはキリスト」この福音は命懸けで守るべき絶対価値とわかる時、闇闇が砕かれ証人の道が開かれる。

だから当然、二番目です。このことがわかっているならば福音の価値が何かに目覚めるので、イエスはキリストというこの福音は命がけで守るべき絶対価値だとわかったときに、闇の力が砕かれて証人の道が開かれることになります。そういう人を現場のやぐらと言います。皆さんがイエスはキリストと信じていらっしゃる方であれば、だれひとりとして例外なくこのようになることができます。イエスはキリスト、この福音は命がけで守るべき絶対価値なんだ。今イエス様はご自身がキリストであるという理由で十字架に向かっていらっしゃるのです。それが福音なのです。絶対価値です。私たちが正しく、また本物としてイエス・キリスト、この信仰をもって、この告白の上に立って、この福音を宣べ伝えようとする時、必ずサタンの攻撃があります。今までの歴史を見ますと一度も例外がありません。

### 1) 異端の濡れ衣

イエス様ご自身を始め、パウロ、初代教会、また、私たちの群れ。必ずイエスはキリストという福音を守ろう、また伝えようとする時、異端の濡れ衣を着せられることになります。しかし、にもかかわらず、異端になるのかどうかよりはるかに絶対価値なのです。イエス様も異端だったので、パウロも異端と言われていました。

### 2) 肉的喪失

それから、このイエスはキリストという福音を守ろうとする時、肉にあるものを失うことになります。初代教会を見ますと、今の仕事も奪われたり、社会的な地位が壊れてしまったり、家から追い出されてしまう

場合もあるし、財産を奪われるときもあるし、自分の故郷から追放されることになるし、場合によってはこの肉の命が奪われる場合もあります。ステパノはそのように死んでいきました。なぜそういうことがあるのでしょうか。悪いことをしたからではなくて、イエスはキリストという真理に立っていると偽りの天国、サタンの国においてはそれが耐えられません。排除しないとイケないのです。この世の中はサタンの国が支配しているわけですから。それも知らないで、なんで教会に通い始めたらこんなことになるのかとか、ついついそれで落胆する、つまり信者さんもいますが、必ずこのようになります。

### 3) 関係の破壊

それから一番耐えがたいことは何かというと、人間関係において、その関係にひびが入って破壊されることになります。こちらの意図ではなくて、向こうから今まで仲良く親しくしていたのに、イエスはキリストという信仰の道を歩き始めようとした途端に「もう縁を切ろう」とか、「もうこれ以上付き合えないよ」とか、いろいろあります。指さされる場合もあります。

### 4) 社会的孤立

それで社会的に孤立してしまう場合もあります。イエス様が、例え話をおっしゃいました。道端にあるいは茨に種が蒔かれた時に、すぐさまそれが途絶えてしまったという話もあるように、こういうことに耐えることができないまま、教会から信仰から離れる人も少なくありません。しかし、イエスはキリストという福音は何があっても命がけで守り、そしてその道を貫いていくべき絶対価値だとわかったときには、どのような攻撃があっても暗闇の力が砕かれて、その最後には証人としての勝利の道が開かれます。これこそが伝道なのです。伝道は自分でやると言うよりはなっていくものなのです。私たちが本当にキリストだけが希望であり、イエスはキリストというこの福音は絶対価値だと心から思っていて感謝して、その契約を握ってそれぞれの現場に立っていれば、皆さんが光を放つやぐらとして用いられることは間違いありません。暗闇の力が砕かれるときに伝道の門が開かれるのです。暗闇が砕かれるときに、皆さんの能力と関係なく、福音宣教の門が開かれることを覚えていてください。

### 5) にもかかわらず

それで聖書を見ますと、このようなさまざまな脅かしのようなことがあったにもかかわらず、それにめげることなく屈することなく勝利できたという証人の話がたくさん記されています。

#### ①ダニエル 3:17-18、6:10

ダニエル 3:17-18「もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません」と言いました。にかかわらず、死ぬとわかっていながらも。なぜなら福音は自分の命より大切な絶対価値だとわかっていたので。ダニエルも王のハンコが押されて自分は死刑になるとわかっていながらも、いつものようにエルサレムに向かって、キリストの御名によって礼拝を捧げていました。にもかかわらずです。

#### ②マタイ 24:9-14

イエス様ご自身もマタイの福音書において、キリストに従うなら、家族からも見放されることもあるし、さまざまな脅迫にあおられるときもあるとおっしゃいました。にもかかわらず恐れないように。信仰を守りとおすように。なぜかという、この福音が全世界に宣べ伝えられてから終わりの日が来るから、それは全部プロセスに過ぎないものなので、勝利はもう決まってることなので、惑わされることがないようにと言いました。

#### ③使徒 4:12、7:59

ペテロは宗教裁判に預かったときに、そこで大胆に言いました。この一言で殺されるかもしれません。しかし構わずに、世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないと。ステパノも石打にされて死んでいながら、「神様、私の魂を受け取ってください。そして、彼らの罪を彼らに負わせないようにしてください」と祈りながら、自分が死ぬということより福音が第一だったのです。皆さんの命よりこの福音は大切な価値なのです。なぜかという、この肉の命が百個あっても私たちを救うことはでき

ません。私たちを地獄の運命から悪魔のしわざから救い出すことなどはできません。

#### ④ピリピ 1:21

だからパウロは刑務所にいながらも私が生きるも死ぬにもキリストの御名が崇められることが私の願いであり目的なんだと告白しているのです。このイエス様が逮捕される場面、また逮捕されてそのパリサイ人とのやり取りの内容を通して、今日のメッセージを心に刻んでいただきたいと思います。

今の時代はフェイクなのかファクトなのかを見極めることはもちろん大切です。しかし、それがいくらファクトだとしても、ファクトそのものが正解ではありません。すべてではありません。それに惑わされることなく真理なのか偽りなのか、そちらの方にこだわって見分けることができる霊的識別力を備える信者になりましょう。何かあるからすぐに感情的に反応して、それに振り回されることなく、いくら大変でも、いくら自分がダメージを受けたとしても、そこで真理なのか偽りなのか、皆さんが決めないといけません。その結果、それでもキリスト、よくよく考えてみると、だからキリスト。結局キリスト。キリストをお証していくために許されたことなのです。皆さんが小さい頃、あるいは過去を振り返って絶対許せない、あるいは絶対これはもう嫌だと忘れられないということがあるかもしれません。それが、結局キリストにならないといけません。そうでないと、それは偽りなのです。イエスはキリストという光が輝くために許されたものとして整理、再編集されないといけません。いつまでたってもファクトそのものに囚われてるから、あの人間のせいで、あの親のせいで、家庭環境のせいでとずっとそれに囚われたままになります。それがファクトだから。でも、偽りが働くのです、そこに。基準はファクトなのかフェイクなのか基準ではありません。イエスはキリストを消すのか、イエスはキリストの方に立つのか。それだけが真理と偽りを見極めるための唯一の基準なのです。だから、それでもキリストをまず守らないといけません。それで少し考えてみると、だからキリスト、結局キリストなんだと告白すると、必ず使徒 1:7-8 の上に立つようになります。今までこだわって、そして感情的になっていたり、悲しんだり、喜んだり、いろいろありましたがどれも、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでイエスの証人となるよと方向が正しく定められることになります。そうでないといつまでたっても、この使徒 1:8 がクリスチャンの行くべき方向なのに、全部方向が違うところなのです。どうなるんだろう。何が悪いのか、何が良いのか。誰のせいなのか、どっちが正しいのか。ずっとそういうことを。それが荒野なのです。サタンの国なのです。よく見極めてください。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。イエスはキリストに間違いなければ何がどうであれ、Only 聖霊、Only 証人、世界福音化。それでマルコのタラップンで祈りに専念していたその祈りの主人公として、残りの生涯、勝利者として歩んでいきましょう。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日も兄弟姉妹とともに、今も御座の祝福をもって信者ひとりひとりとともにおられ、働いていらっしゃる主を見あげ、礼拝を捧げられる幸いをありがとうございます。どうかひとりひとりが悪魔サタンの偽りに惑わされることなく、アダムが惑わされて失敗したことを、第2のアダム、イエス・キリストが打ち砕いて勝利なさったので、イエスはキリストという真理の上をしっかり立って、すべてを見極めて、その真理に従い、証人の道を歩いて行くことができるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。